

<評価表> ※評価機関・ホーム共用

ホーム名	神戸(ゆうゆうの里)	開設日	S58.9.1
評価機関	京都府認知症グループホーム協議会	評価受審日	H30.12.13

評価シートNo. 1

No.	項目名	自己評価	機関評価
1 運営主体の姿勢	1.1.1 経営姿勢の周知	A	A
	1.1.2 経営における社会的責任	A	A
	1.1.3 コンプライアンスへの取り組み	A	A
	1.1.4 法人の事業計画策定	A	A
	1.2.1 財務状況の改善・向上	A	A
	1.2.2 資金管理	A	A
	1.2.3 資金管理の内部統制	A	A
	1.3.1 事業関連情報の共有	A	A
	1.3.2 個人情報保護義務	A	A
	1.3.3 個人情報の管理	A	A
	1.4.1 職員の育成	A	A
	1.4.2 職員の評価・報酬	A	A
	1.4.3 人事考課	A	A
	1.4.4 職員のモチベーション維持	A	A
	1.4.5 職員の就業状況への配慮	A	A
1.4.6 中間管理職の役割	A	A	
1.4.7 資格取得への支援	A	A	
1.4.8 入居募集に係る職員への指導	A	A	
1.5.1 入居者の権利擁護	A	A	
1.5.2 権利擁護に係る外部との連携	A	A	
1.5.3 虐待防止への組織的対応	A	A	
2 ホームの運営方針	2.1.1 運営理念の周知	A	A
	2.1.2 ホームの事業計画の策定・評価	A	A
	2.2.1 見学受け入れの姿勢	A	A
	2.2.2 体験入居への取り組み	A	A
	2.2.3 入居条件の緩和	A	A
	2.2.4 契約書類内容の整合性	A	A
	2.2.5 契約関係書類の開示時期	A	A
	2.2.6 特定施設利用契約の説明時期	A	A
	2.2.7 利用料改訂方法	A	A
	2.2.8 契約解除に係る入居者保護	A	A
	2.2.9※ 保全措置	A	A
	2.2.10 短期解約特例	A	A
	2.2.11 原状回復取扱規程	A	A
	2.3.1※ 要介護者等への職員配置	A	A
	2.3.2 夜間の職員配置	B	B
2.3.3 サービスの質向上への取り組み	A	A	
2.3.4 ニーズの把握	A	A	
2.3.5 運営懇談会の開催	A	A	
2.3.6 ホーム運営状況の報告方法	A	A	
2.3.7※ 介護保険会計との区分	A	A	
2.3.8 ホーム以外の事業会計との区分	A	A	
2.3.9 社内の苦情処理体制	A	A	
2.3.10 社外の苦情処理体制	A	A	
2.3.11 損害賠償	A	A	
2.4.1 金品授受の取扱い	A	A	
2.4.2 業務マニュアルの策定・見直し	A	A	
2.4.3 事故防止への取り組み	A	A	
2.4.4 感染症予防の取り組み	A	A	
2.4.5 災害対策マニュアルの整備	A	A	
2.4.6 防災訓練の実施	A	A	
3 建物	3.1.1 パリアフリー	B	B
	3.1.2 緊急通報装置	A	A
	3.1.3 安否確認の実施	A	A

No.	項目名	自己評価	機関評価
設備	3.1.4 車いすでの移動	A	A
	3.1.5 相部屋でのプライバシー配慮	非	非
	3.1.6 共用施設の設置	A	A
	3.1.7 来訪者との談話スペース	A	A
4 生活サービス	4.1.1 生活相談業務	A	A
	4.1.2 小口現金の管理	A	A
	4.1.3 生活利便サービスの実施	A	A
	4.1.4 外部からの生活サービスの導入	A	A
	4.2.1 コミュニケーション	A	A
	4.2.2 アクティビティの計画的な実施	A	A
5 食事サービス	5.1.1 バリエーション	A	A
	5.1.2 入居者のニーズの反映	A	A
	5.2.1 自立の観点での食事介助	A	A
	5.2.2 疾病に対応した食事の提供	A	A
	5.2.3 適温での提供	A	A
	5.2.4 個別の食事管理	A	A
	5.2.5 口腔ケアへの取り組み	A	A
6 ケアマネジメント	6.1.1※ 介護の提供方針	A	A
	6.1.2 接遇上の配慮	A	A
	6.1.3 介護保険の制度説明	A	A
	6.2.1※ ケアマネジメントの実施	A	A
	6.2.2※ 個別アセスメントの実施	A	A
	6.2.3※ ケアプランの作成	A	A
	6.2.4※ 暫定ケアプランの作成	A	A
	6.2.5※ ケアプランの見直し	A	A
	6.2.6※ ケース会議等の開催	A	A
	6.2.7 ケース会議等の個人情報利用	A	A
6.2.8 家族等との連携	A	A	
6.2.9 身体拘束廃止への取り組み	A	A	
6.3.1※ 職員の技術向上	A	A	
6.3.2 職員の認知症介護技術向上	A	A	
6.3.3 サービス評価の実施	A	A	
7 ケアサービス	7.1.1 健康管理	A	A
	7.1.2 緊急通報装置への対応	A	A
	7.2.1 閉じこもりの予防	A	A
	7.3.1※ 個別ケア(入浴)の実施	A	A
	7.3.2※ 入浴介助時のプライバシー配慮	A	A
	7.3.3 入浴環境の整備	A	A
	7.3.4※ 入浴介助中の事故防止対策	A	A
	7.4.1※ 個別ケア(排泄)の実施	A	A
	7.4.2※ 排泄介助時のプライバシー配慮	A	A
	7.4.3※ おむつ交換の実施	A	A
	7.4.4※ 臭気への配慮	A	A
	7.4.5 排泄介護用品の選定	A	A
	7.5.1※ じょく創予防	A	A
7.5.2※ 寝・食分離への取り組み	A	A	
7.5.3 福祉用具の選定	A	A	
7.5.4※ 館外での介助	A	A	
7.5.5※ 機能訓練の実施	A	A	
7.5.6 居住環境の整備	A	A	
7.5.7 他の入居者との関わりの支援	A	A	
7.6.1 医療機関との協力	A	A	
7.6.2 家族との医療面での連携	A	A	
7.6.3 服薬管理の実施	A	A	

注意: 上記のスケールNo.に【※】印が付されている項目は、ホームの事業内容によって【非該当】との選択肢がありうるものである。(詳細は、評価プログラムを参照)

<評価結果所見書>

※評価機関記入

評価シートNo. 3

受審ホーム名 神戸（ゆうゆうの里）

評価機関名 京都府認知症グループホーム協議会

優れた取り組みと思われる点

スケールNo.	
2-4-6	神戸ゆうゆうの里防災計画を基に日中想定で年2回、夜間想定で年1回の防災訓練を実施している。施設長と担当課の職員が自治会の防災コミュニティ会議に毎月出席し、連携強化に努めている。さらに地域の祭りへの協力として看護師の派遣や食事サービス課からはお好み焼き400枚の提供、ホームで開催する餅つきや2か月に1回ホームで開催されるバイキング「Youゆう～Bar」を案内するなど地域交流に努めている。また毎年自治会主催で開催される世代間交流としてホーム敷地内のエントランスを提供し、小中学校の生徒、父兄、自治会、近隣住民、入居者、職員など約150名が参加して「炊き出し訓練」「耐震車体験」「段ボールベッド・簡易トイレの作り方」「煙体験」など防災知識を深める取り組みを実施している。今年度、支援学校からの就労体験を月2回実施するなど防災訓練にとどまらない地域を巻き込んだ取り組みに力を注いでいる。
4-1-1	入居者相談委員会を設置し、生活サービス課が中心となって各課担当メンバーによる入居者相談担当者会議を毎月開催している。会議では相談内容を共有し、問題解決に向けて個別に検討をしている。また定期的にホームで開催される成年後見相談会、介護サービス説明会はもとより、「有料老人ホームなんでも相談」や「確定申告の相談会」など弁護士や司法書士の相談会は広報紙「まど」、新規入居時に配布される「くらしのしおり」や施設内の掲示にて案内している。さらに入居者には毎朝9時の「朝の放送」で当日の催しをコンシェルジュサービスとして案内するだけでなく、聞き逃した方には内線で再度放送内容を聞くことができる。これにより、入居者が当日の様々なイベントを取りこぼしなく活用できる仕組みを整備している。
4-2-1	新規採用者研修にて高齢者にかかる研修として認知症研修、コミュニケーションスキル及び接遇研修等を実施している。特に接遇に関しては3か月のフォロー研修をするなどコミュニケーションスキル向上に向けた徹底した取り組みとなっている。新規入居後の3か月間「ソフトランディング」として困っていることがないか、希望通りに生活ができているかなど意向を確認するため居室訪問を密にすることで、入居者にきめ細かな対応を行っていることが確認できた。環境の変化に対する不安の解消や他の入居者、職員との仲介役となり新しい生活にスムーズに溶け込めるよう支援している。
4-2-2	年間行事計画は、入居者の要望から通年の日を定めた計画書となっている。ホームで毎月開催される運営連絡会議は各号館で選任した代表者と施設長及び各課の担当で構成され、入居者の様々な意見や要望を反映している。定期的に行っている「音楽のつどい」「遊歩道散策」「ゆうゆう茶屋」「お寿司の会」「徳川道ウォーキング90分」「Youゆう～Bar」をはじめとして、季節ごとの行事やバスツアーなど多くの企画を用意して、入居者の多様なニーズを反映し、日々の暮らしをより豊かにしている。各種行事は企画書にてリスクマネジメントにも配慮し、実施結果を評価した上で問題点や反省点を次に生かせるような取り組みとなっている。
7-5-4	身体的な理由により外出に支援の必要な入居者に対してアセスメントにより生活歴等の情報を収集するとともに意向を確認した上で個別計画書に位置付け、毎週20分程度の「遊歩道の散歩」の実施や「音楽のつどい」への参加につなげている。また精神的な理由により引きこもりがちな入居者に対しても個別計画書から現場のケアに即した具体的なプランを担当者が作成し、スタッフが情報を共有し、声掛けなど働きかけの統一化を図ることで外出を促すなどの個別の支援につなげている。この支援が入居者の意欲を引き出し、外出企画への参加を実現している。

さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケールNo.	

その他の所見

--